

1999 年度 森泰吉郎記念研究振興基金

「国際共同研究・フィールドワーク研究費」報告書

研究プロジェクト名： Globalization and National Identity

研究代表者氏名： 渡辺吉鎔 総合政策学部教授

1. 本研究の目的とその概要

本研究の目的は、SFC とウィリアム&メアリー大学間の共同研究を促進し、国際・地域研究に携わる教員・学生間のコラボレーションの実現、さらに新たな形のコラボレーションを開発・促進することにある。これまで、ウィリアム&メアリー大学の Reves Center と学部学生レベルでの交流はあったが、昨春の同 Center との合意の下、大学院生、ファカルティーの研究交流へと発展させる気運が高まった。これを受けて SFC とウィリアム&メアリー大学との学術的交流によって両大学間の共同研究を促進させる、具体的な成果を発表する場として、"Forum21"が設立された。そしてビデオ会議等を通じて COE、教員および大学院生とウィリアム&メアリー大学との間で議論をおこなうなどの交流を実施してきたことを踏まえて、具体的に発展させた Forum21 の第一回シンポジウムは、1999 年 11 月 17、18 日の両日、SFC において開催された。またその開催準備および両大学の学術的交流の基礎的な意見交換のために、同年 8 月 5 日にウィリアム&メアリー大学において、両大学の教員・大学院生により Workshop が開催され、双方よりプレゼンテーションがおこなわれている。以下では 1999 年度におけるこれら一連の成果について述べる。

2. 研究実施内容

本研究の実施内容は、上述したように主としてウィリアム&メアリー大学の Reves Center と SFC との国際共同研究である。11 月の SFC での Form21 開催に向けて、8 月 5 日、ウィリアム&メアリー大学の University Center、York Room において両大学合同の Workshop が開催された。初めに Forum21 の開催について山本純一環境情報学部教授による概要説明がおこなわれた後、政策・メディア研究科博士課程の佐藤文香・池田洋一郎・小嶋亜維子・廣田拓の 4 名、および曾根泰教総合政策学部教授、久保幸夫環境情報学部教授から、各々の研究関心分野についてプレゼンテーションがおこなわれた。引き続き、ウィリアム&メアリー大学側から、Geoffrey Feiss(Dean of the Faculty of Arts and Sciences)、Clyde Haulman(Professor, Economics)、T.J. Cheng(Associate Professor, Government)、Clay Clemens(Associate Professor, Government)、Stephen Ndegwa(Assistant Professor, Government)、David Feldman(Associate Professor, Economics)、Donelson Wright(Dean, Virginia Institute of Marine Science)、Heather MacDonald(Associate Professor, Geology)、Don Rahtz(Associate

Professor, Business), Margie Mason(Assistant Professor, Education), Trotter Hardy(Associate Dean, Law), Connie Kearns McCarthy(Dean, University Libraries)より、同じく各々の研究関心分野についてプレゼンテーションがおこなわれた。11月のForum21開催に向けて両大学間の研究関心分野やシンポジウム開催への基礎的な合意事項を確認し、活発な議論が交わされた。また上記の発表者以外にも両大学より多数の教員がWorkshopに参加し、より具体的なコラボレーションの実現に向けて意見交換もおこなった。

この8月のWorkshopを受けて、その後両大学間で準備作業が進められ、11月17、18日にはSFCにおいて、Forum21が開催された。17日はGretchen Ferris Schoel(環境情報学部訪問講師、Ph.D. Candidate, American Studies Program, College of William and Mary)を議長にPanel Discussionがおこなわれた。Panel 1はCultural Studiesを共通のテーマとし、佐藤文香(政策・メディア研究科博士課程)、小嶋亜維子(同研究科博士課程)、Gretchen Ferris Schoel、Charles Green(Ph.D. Candidate, American Studies Program, College of William and Mary)がプレゼンテーションをおこなった。Panel 2はInternational Studiesを共通のテーマに、池田洋一郎(政策・メディア研究科博士課程)、廣田拓(同研究科博士課程)がプレゼンテーションをおこなった。両Panelともに質疑応答がおこなわれ、参加者や発表者が活発な意見交換をおこなった。

翌日はさらに多くの参加者を得て、3つのSessionが開催された。Session 1は"Globalization and National Identity - Emerging Issues of Global Governance and Peace in the Twenty-first Century -"と題し、鈴木佑治環境情報学部教授をコーディネーターに、小島朋之総合政策学部教授が"An Era of Competitive Coexistence and China"、Clyde Haulman 教授が"Contemporary Chinese Nationalism and US - China Relations"というテーマでそれぞれプレゼンテーションをおこない、Discussantとして小島教授がコメントした後、会場の参加者も交えて質疑応答がおこなわれた。Session 2は"Multilateral Framework for Global Governance - Possibilities of Supranational Governance"と題し、梅垣理郎総合政策学部教授をコーディネーターに、曾根泰教総合政策学部教授が"Global Governance and Governability"、Anthony Anemone 準教授が"Post-Soviet Russian Cultural and Society: Nationalism vs. Globalization"というテーマでプレゼンテーションをおこない、Discussantとして香川敏幸総合政策学部教授のコメントの後、活発な質疑応答が交わされた。Session 3は"Paradigm for Global Governance - Peoples, Cultures, and Societies that constitute Global Governance"と題して、山本純一環境情報学部教授をコーディネーターに、Ann Marie Stock 教授が"Global Cinema: A Montage towards Supranational Governance"、渡辺吉鎔総合政策学部教授が"How the Monetary Crisis Influenced Korean Nationalism?"というテーマでプレゼンテーションをおこない、Discussantとして奥田敦総合政策学部教授がコメントし、質疑応答がおこなわれた。いずれのセッションも会場からの質問も含めて非常に活発な討論がおこなわれ、両大学の教員・大学院生による学術的な交流が促進された。

8月のWorkshopと11月のForum21の開催により、当初本研究が企図していたウィリアム&メアリー大学との学術的なコラボレーションが実現しただけでなく、この研究交流の場

を通じて形成された様々なネットワークを生かし、両大学間において学部学生レベルにとどまらない、教員・大学院生レベルによる学術的な更なる交流が、今後深まることが期待される。